



忍
郷
友
會
報

松平忠寿翁書

No. 65

平成20年12月1日

忍郷友会会報 第六十五号 目

次

2009年の活動と将来の展望……………	松平 忠昌……………	1
平成20年度定時総会報告……………	小山 博……………	2
平成19年度事業報告……………	事務局……………	4
運営会議について……………	小山 博……………	7
収支決算書・貸借対照表……………	事務局……………	8
忍郷友会役員名簿……………	事務局……………	9
第23回浮き城のまち行田		
「少年の主張大会」……………	清水 龍男……………	10
最優秀者作品①……………	加藤安梨沙……………	10
最優秀者作品②……………	坪井友佳里……………	11
最優秀者作品③……………	横川 莉菜……………	12
最優秀者作品④……………	羽鳥 綾花……………	13

第八回 三端懇話会……………	木暮 照子……………	14
進脩塾活動について……………	田代 敬二……………	16
読書推進運動について……………	大野 年司……………	17
第七回全国藩校サミット熊本大会……………	川田 隆生……………	18
平成20年度法人会員名簿……………	事務局……………	20
平成20年度事業行事経過……………	事務局……………	21
足袋屋が育てた偉人小島慶三先生を悼んで……………	渡辺 栄一……………	24
第二十回企画展「林頼三郎」を見学して……………	橋本 恭一……………	25
俳句・短歌・川柳……………	事務局……………	27
御名刺掲載欄……………	事務局……………	30
編集後記……………	黒瀧 陽夫……………	32

2009年の活動と将来の展望



財団法人忍郷友会

会長 松平忠昌

時の経つのは早いもので、あっという間に百周年記念から三年が過ぎてしまいました。この間の大きな動きとしては、行田に本部を移転したことが挙げられますが、大過なく事業活動を推進して参れたものと思います。

ます。これも偏に会員各位の御尽力の賜物と感謝する次第であります。

二〇〇九年の活動については、二〇〇八年と同様に「違いの判る人間を育成する教育の助成」のビジョンに沿って事業を推進して参りたいと考えています。

軸になる事業は、行政との提携で後援している「浮き城の町少年主張大会」、中高生に一流人の講演と会食の機会を提供する「三端懇話会」、素読教室と論語講座を主催している「進脩塾」の支援、「読書推進委員会」の活動、等であり、引続き事業として推進するべき事業であります。

しかし、忍郷友会を取り巻く環境は、次第に厳しいものになるとご理解願います。ポイントは大きく分けて二つであり、

その一は「活動の財源」です。「三端懇話会」と「読書推進委員会」の事業は、所謂「江草基金」を財源として活動して来ましたが、残る所二年で当該基金を使い切ることになっていきます。その二は、「制度改革」です。二〇〇八年十二月一日に施行される「公益法人制度改革の関連三法」により、当会も五年後の二〇一三年十一月末迄に対応を迫られることになります。

懸念は、二〇〇七年三月に当会の本部事務局を行田に拠点を置いた事が、管理監督官庁「文部科学省」の評価として、地方行政（埼玉県）に帰属するべき法人ではないかとなる事で、新制度の法人への移行を指導される可能性が強い事です。仮に、公益法人として認可を得る場合でも、寄付行為の大幅な改正を含めた改革が必要となります。今後五年間で当該問題に対処して行く必要がありますので、皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。「教育」への支援事業活動と「公益性」がどの様な扱いとなるかは関心事ですし、寄付金に対する「税制」も注目点となります。しかしながら、青少年の教育・人材の育成は普遍的な命題でありますので、教育支援を当会の事業活動の柱として継続していく所存です。

何れにしても、具体的な問題につきましましては、今後の活動を通じて必要の都度皆様にご案内したいと考えています。

一方、新聞紙上を騒がす世間の一般情勢は、危機感を煽るものばかりであり、矢張り「教育」の重要性を意識させられるところです。政治面では、「解散」・「総選挙」とその行方が今後の「景気対策」にどのような影響を及ぼすかであり、米国の「大統領選挙」の行方も気になる所です。経済面では、市場が不安定であり、引き続き厳しい情勢が予想されるために我慢を強いられることになると思います。この様な混乱が続く時こそ「教育への支援」を軸に、「油断をせず」に「出来ることを着実に実施する」ことです。

必ずしも明るさが期待できない不透明な先行きかも知れませんが、二〇〇九年は会員間の親睦を深めて、この難しい時期を乗り越えて行きたいと考えます。

「違いの判る人間を育成する教育への支援」を念頭に行田から将来の日本や世界を担う人材を輩出させる事を目指して事業を推進して参りますので、引き続き宜しくご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



平成二十年度定時総会報告



事務局長 小山 博

平成二十年六月二十一日(土)午後二時より、市内アイトピアにおいて総会及び懇親会を開催した。総会に先立ち評議員会・理事会を開き、評議

員四十三名(内委任状十九名)理事十六名(内委任状五名)が出席、両会議とも成立した。

会議は寄附行為第十七条二項の規定に基づき松平忠昌議長により議事が進められた。審議に先立ち評議員会議事録署名人に碓井勝也氏、清水龍男氏、理事会議事録署名人には黒瀧陽夫氏、清水義夫氏を氏名、それぞれ議事録署名人を受諾した。

審議に入り「第一号議案、平成十九年度事業報告」「第二号議案平成十九年度収支決算報告」について、小山博理事(事務局長)が内容を説明、引続き大野年司氏が監事を代表して監査結果について報告がなされ、松平議長が承認について諮り、審議の結果全員異議なく本案はそれぞれ承認可決された。

続いて第三号議案評議員、理事、監事選任及び会長、副会長、

東京支部長、川越支部長、事務局長の選任(任期平成二十年から二十三年五月までの任期三年)について小山事務局長から説明がなされ、満場一致で選任された。

第四号議案 運営会議設置の件、松平会長の指名を受け渡辺副会長から(財)忍郷友会の活性化と円滑な運営、各部門の横の連絡連携、及び将来計画の展望を議論する会議を開く必要がある旨の説明がなされ、活発な議論が行われ慎重に審議、その必要ありとの結論に達し全員賛同をもって承認された。以上をもって会議は終了し議長は閉会を宣言した。

休憩を挟み、午後三時四十分より「第一部総会」が矢澤大和理事の司会により開催、総会に先立ち議長より物故者のご冥福をお祈りしたい旨発言があり、会員一同起立の上、心より黙祷を捧げた。(物故者指名は事業報告書に掲載)

会議は松平忠昌会長の挨拶に続き、寄附行為第十七条二項の規定に基づき、松平会長が議長席に着き、議事が進められた。議長の指名により、小山事務局長(理事)から同日開催された評議員会、理事会の審議内容承認事項、会務の状況報告がなされ、



引続き各事業委員長より、各事業の報告事項などが配布資料に基づき一括説明された。
なお来賓として行田市市長工藤正司様、行田市教育長丸山綱男様からお祝辞を頂いた。

第二部 記念講演会

午後四時四十分
定刻通り講演会を開催

演題 「人生の心得」 — 父安岡正篤に学ぶ —



講師 郷学研究所

理事長 安岡 正泰氏

講師の安岡正泰先生は本会会員木村忠夫と日通時代共に汗を流した関係で行田にお出で頂くことが出来た。超有名人であり、改めて木村忠夫氏に感謝申上げたい。当然の事ながら講師紹介は木村氏にお願いした。

安岡正泰氏の父正篤先生は、歴代首相のご意見番として要人に頼りにされ、今の平成の年号は故小渕総理が官房長官の当時「平成」とさだめられたが、その提案者は安岡正篤先生であったという。正泰先生の「父を悟る」は、日本の現状に不安を抱く会員に、勇気と感動をあたえた。



第三部 懇親会

— 原正夫のジャズピアノで大いに盛り上がる —

懇親会は会場を変え、午後六時より、碓井勝也新理事の軽快な司会により開催され、松平会長のご挨拶、

来賓の小島敏男衆議院議員、鈴木聖二県議会議員、新井孝義市議会議員（代理）よりお祝いの挨拶を頂いた。

行田商工会議所名誉会頭清水孝男様の乾杯を皮切りに、聖者の行進、ムーンライト、セレナーデなどお馴染みのポップス曲をはじめ、原正夫が独自のアレンジをした日本の名曲は、や、固い会場の空気を一変させ、一気に盛り上がった。女性会員に付られて男性会員もピアノに合わせて踊る姿は誠に若々しい上質のパーティーの様相を呈し、会場はなごやかな雰囲気包まれた。



実務家向け判例付き六法の決定版
有斐閣判例六法
Professional
平成21年版

青山善充・菅野和夫
江頭憲治郎・小早川光郎
西田典之／編集代表
定価5250円（税込）

保険法・労働契約法を判例付きで新収録
有斐閣判例六法
平成21年版

青山善充・菅野和夫
／編集代表
定価2730円（税込）

重要法令6件を新収録、ハンディ六法の決定版
ホケツト六法
平成21年版
収録法令一八五件

菅野和夫・江頭憲治郎
小早川光郎・西田典之
／編集代表
定価1890円（税込）



代表取締役社長 江草貞治
株式会社 有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312 FAX03-3264-5030

平成十九年度 事業報告

1、総 会

① 定時総会開催

(理事・評議員会、講演会・懇親会)
日 時 平成十九年六月十日(日)

参加者七十七名

午後二時〇〇分～

午後八時〇〇分

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア
来 賓

衆議院議員 小島 敏男様

元内閣府事務次官 江利川 毅様

埼玉県議会議員 鈴木 聖二様

行田市市長 工藤 正司様

行田市議会議長 岩田 讓啓様

行田市教育委員会教育長 津田 馨様

行田市教育委員会委員長 鏡 スミ様

行田商工会議所名誉会頭 清水 孝男様

行田商工会議所副会頭 小川 雅以様

行田商工会議所副会頭 川辺 秀夫様

行田ロータリークラブ会長 小池 利昌様

松平忠昌議長より平成十八年度の

事業および決算、監査について報告があった

記念講演 「忍藩主阿部家と行田市」

講師 忍藩主阿部家二十二代当主

阿部 正靖様

懇親会・アトラクション

「雅楽の演奏」

大谷喜代治と雅楽天神会

② 定時総会開催

(理事会・評議員会、講演会・賀正会)

日 時 平成二十年一月二十六日(土)

参加者四十七名

会 場 東京・日本工業倶楽部会館

来 賓 行田市副市長 清水 英孝様

行田市商工会議所会頭 鈴木 秀憲様

ものづくり大学学長代行 中村 隆夫様

忍藩主二十二代当主 阿部 正靖様

行田青年会議所理事長代理 田中 秀和様

松平忠昌議長より平成二十年度の

事業計画および予算について報告が

あった

記念講演

「さきたま古墳群と世界遺産」

講 師 前行田市郷土博物館長

大友 務様

懇親会・アトラクション

加瀬田聡ピアノとパーカッション演奏

2、役員会

① 理事・監事合同準備会

日 時 平成十九年四月二十日(金)

会 場 東京・(株)有斐閣本社会議室

審議事項

1 平成十八年度事業報告書(案)

について審議

2 平成十八年度決算報告書(案)

について審議

3 平成十八年度の事業・決算に

係わる監査

4 平成十九年六月十日(日)総会

開催準備会

5 その他

定時総会日に開催される理事会・

評議員会に提案する審議事項並びに

総会報告事項の決定、総会の運営進

行等について打ち合わせ

② 理事会、評議員会

日 時 平成十九年六月十日(日)

午後二時〇〇分～三時三〇分

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成十八年度の事業報告がな

され審議・承認

2 平成十八年度の決算報告がな

され審議・承認

3 平成十八年度の事業に係わる

監査について報告され承認

4 副会長及び東京支部について

③ 臨時理事会

日 時 平成十九年九月十一日(火)

午後四時〇〇分～七時三〇分

会 場 アドバンテスト・クラブハウス

審議事項

1 芳川波山の顕彰事業について

2 本部役員及び東京支部について

3 その他

④ 理事・監事合同準備会

日 時 平成十九年十一月七日(水)

会 場 アドバンテスト・クラブハウス

審議事項

1 平成二十年度(平成二十年四月

一日～平成二十一年三月三十一

日)事業計画(案)について

A 「進脩塾」事業計画案につい

て審議

B 「浮城のまち行田少年の主張

大会」事業計画案について審

議

C 「三端懇話会」事業計画案に

ついて審議

D「読書推進実行委員会」事業
計画案について審議

2 平成二十年度（平成二十年四月
一日）平成二十一年三月三十一
日）予算（案）について審議

3 平成二十年六月の理事会・評議
員会、総会の日程について

小山 博事務局長より、平成二
十年六月二十一日（土）に開催した
いとの提案があり審議

4 その他

④ 理事会、評議員会

日 時 平成二十年一月二十六日（土）
午後二時〇〇分～
午後三時三〇分

会 場 日本工業倶楽部会館（東京）
審議事項

1 平成二十年度（平成二十年四月
一日）平成二十一年三月三十一
日）事業計画（案）について

A「進脩塾」事業計画案につい
て審議、承認

B「浮城のまち行田少年の主張
大会」支援・助成について審
議、承認

C「三端懇話会」事業計画案に
ついて審議、承認

D「読書推進実行委員会」事業
計画案について審議、承認

2 平成二十年度（平成二十年四月
一日）平成二十一年三月三十一
日）

日）予算（案）について審議、承
認

3 平成二十年六月の理事会・評議
員会、定時総会の日程について

小山 博事務局長より、平成二
十年六月二十一日（土）に開催した
いとの提案があり審議、承認

4 運営委員会（仮）設置について審
議、承認

5 その他 報告事項

3、事業・行事関係

教育奨励事業

進脩塾活動公開講座①

「日本語たんけん漢字の面白さ再発
見」と「素読教室発表会」

「漢字は「成立ち」を理解すれば楽し
く覚えられる」

日 時 平成十九年二月二十四日（土）
会 場 行田市教育文化センター
「みらい」第一学習室

講 師 土屋 秀宇 先生
受講者 六十八名

公開講座②

第6回「論語に学ぶ家庭教育」と

「素読教室発表会」

日 時 平成十九年八月二十五日（土）
会 場 行田商工センター四〇一
会議室

講 師 謡口 明 先生
受講者 八十八名

定例講座

一月「論語」 荒井 桂 先生

三月「論語」 荒井 桂 先生

四月「論語」 荒井 桂 先生

五月「論語」 荒井 桂 先生

六月「論語」 荒井 桂 先生

九月「論語」 荒井 桂 先生

十月「論語」 荒井 桂 先生

十一月「論語」 荒井 桂 先生

※行田ケーブルテレビにて放映

（内容）進脩塾の目的、講義、受

講者の感想、今日の論語から

なお、十七年四月より、田代敬二
氏及び小林康夫氏が講師として低

学年児童（四歳～八歳迄）を対象
とした、論語・漢詩・俳句の素読

教室を毎週土曜日に開催している。

② 「第二十二回・浮城のまち行田
少年の主張大会」優秀者表彰

日 時 平成十九年七月二十八日（土）
会 場 行田市教育文化センター
「みらい」ホール

発表者 市内小・中学校児童・生

徒、父兄等二五〇名参加

本会、松平忠昌会長より記念品

を贈呈する

③ 第七回「三端懇話会」

日 時 平成十九年八月二十二日（水）
会 場 東京霞ヶ関ビル三十五階
と東京会館

講 師 江利川 毅 先生（元内閣
府事務次官）

聴講者 行田市市内の中・高校生
二十名参加

④ 読書推進運動

1 第6回読み聞かせボランティア
のための講演・研修会

日 時 平成十九年十一月十八日（日）
会 場 行田市教育文化センター
「みらい」第一学習室

演 題 「だれでもできる読み聞
かせ」子どもたちは待つ
ている」

講 師 村上 淳子 先生

研修会 常葉学園大学教育学部講師
「実際に声に出してよんで
みましょう」

聴講参加者 五十名

2 学校図書寄贈目録贈呈式

忍郷友会創立百周年記念事業の統
である学校図 書寄贈は、読書推進
実行委員において慎重審議の結果、

本年度は次の小学校三校に図書を贈
呈した

日 時 平成十九年五月十八日（金）
午前十一時

会場 行田市教育委員会 教育
長室

寄贈校

行田市立北小学校校長

春山 教子様

行田市立桜ヶ丘小学校校長

飯塚 修様

行田市立太田西小学校校長

関根 勇様

当日は上記三校の校長先生ほか下記の方々が出席された

行田市教育委員会教育長

津田 馨様

行田市教育委員会教育総務課長

長谷川 博様

財団法人忍郷友会

事務局長 小山 博氏

理事 江草 忠敬氏

理事 矢澤 大和氏

評議員 木嶋 清氏

監事 板倉 安男氏

3 読書推進実行委員会開催

日時 平成十九年八月三十一日

(金)午後四時～

会場 アドバンテスト・クラブ

ハウス

議題 1) 読み聞かせボランティア講演会開催について

2) 学校図書館図書寄贈について

2) 学校図書館図書寄贈について

5、慶 弔

①お悔やみ申し上げます

渡辺 時寛 様

(平成十九年八月二日逝去)

加藤 正隆 様

(平成十九年九月六日逝去)

満井 公夫 様

(平成十九年十一月十九日逝去)

高橋 信一 様

(平成十九年九月七日逝去)

6、会員増強対策

(十九年十月～二十年三月まで)

新入会員紹介(敬称略)

(紹介者 小山 博)

・大友 務

北埼玉郡騎西町戸室二一八

一八

・木村 忠夫

行田市渡柳一三三

以上二名

プライミクス株式会社

社 会
長 古市 尚
長 古市 實



本社 〒553-0001 大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話 (06) 6458-7530
FAX (06) 6458-7850
東京支社 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六番四
埼玉支社 〒350-0833 埼玉県川越市芳野台二丁目八番四〇
工場 淀川・武庫川・埼玉・上海

<http://www.primix.jp>



本なら何でも揃う

宮脇書店 行田店

代表取締役 矢澤 大和

Tel. 048-554-6300

Fax. 048-553-7500

営業時間 AM9:30～PM10:00

年中無休

<http://www.tvlg.ne.jp/miyawaki>

忍郷友会に運営会議が組織されました

運 営 会 議 開 催 規 程

(財) 忍 郷 友 会

(目的)

本会議は(財)忍郷友会の事業の効果的な推進と、本会の運営が円滑で適切に時宜を得て遂行されることを目的にして開催する。その結果会員の参加意識と会員としての誇りが高まり、本会の活性化と会員基盤が強化されよう期待するものである。

(会議)

- (1) 委員会その他の部門の事業計画と推進に寄与するための地域情報や会員の意見、要望を咀嚼し交換するほか、各部門間の連絡調整と状況報告をする。
- (2) 必要に応じて理事会、評議員会及び会長に具申する。

- (3) 座長は事務局長とし、緊急又はやむを得ない場合は、指名された代理者が務める。座長は開催日時を予め告知する。

(構成)

事務局長、委員長及び幹事長を以って構成するほか、その都度必要に応じて会員より参加者を座長が指名し、出席を求めることがある。

(開催)

定例会のほか、座長が必要と認めた場合は臨時に召集する。開催の際は原則事務所を使用する。

以上

今何故？ 運営会議

(財)忍郷友会 当面の課題

事務局長 小山 博

一、忍郷友会主な事業は、四事業委員会それぞれ独自の事業を行っており、ともすれば横の連携が不足がちとなります。それらを解消し、お互いの情報交換を密にし、より一層の充実した(財)忍郷友会の運営を目指すものであります。

二、(財)忍郷友会では創立以来教育事業を主とした運動を展開しております。江草基金(一〇〇〇万円)を使った四つの委員会の事業は平成二十二年度をもって一つの区切りを迎えます。これをもって江草基金の活用は終了いたします。ではそれ以後の教育文化活動はどうあるべきかを検討いたします。

三、会員全員が参加できる賀正会、総会のあり方を総点検し、一人でも多くの会員が参加したいと意欲をかきたてる企画立案等の検討をいたします。

四、今後本会の目的達成の為には、どうしても財政基盤の確立が必要でありますのでその試案作成も急務かとおもいます。更に公益法人制度の改正実施期限も五年と限られており、検討に入らなければならないと考えております。

おおよそ以上の点について配慮しながら委員の建設的、斬新な意見交換としながら本会の運営に寄与しその上必要に応じて、評議員会・理事会及び会長に提言して参ります。

※P 23に組織図が掲載されておりますのでご参考ください。

法人名：財団法人忍郷友会

事業名：事業全体

自 平成 19 年 4 月 1 日
至 平成 20 年 3 月 31 日 決算

収支計算書

(単位：円)

科 目	金 額
I 収入の部	
基本財産運用収入	250,505
会費収入	1,665,000
総会費収入	972,000
寄付金収入	50,000
雑収入	244,306
当期収入合計 (A)	3,181,811
前期繰越収支差額	3,765,943
収入合計 (B)	6,947,754
II 支出の部	
事業費	
事業費	2,859,499
その他の経費	
一般管理費	1,026,111
会合費	146,060
事務所賃借費	365,555
業務職員給与	600,000
租税公課	64,100
当期支出合計 (C)	5,061,325
当期収支差額 (A) - (C)	-1,879,514
次期繰越収支差額 (B) - (C)	1,886,429

支出の部の内訳書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
事業費			
(総会費用)	1,300,000	1,244,800	55,200
(会報発行費)	250,000	267,750	-17,750
(少年の主張支援)	180,000	196,949	-16,949
(進脩塾支援)	1,170,000	150,000	1,020,000
(三端懇話会支援)	500,000	500,000	0
(読書推進支援)	500,000	500,000	0
小 計	3,900,000	2,859,499	1,040,501
慶弔費	100,000	0	100,000
一般管理費			
(通信運搬費)	300,000	302,415	-2,415
(事務用品費)	200,000	169,517	30,483
(交通費)	20,000	20,798	-798
(送金手数料)	30,000	26,690	3,310
(雑費)	30,000	506,691	-476,691
小 計	580,000	1,026,111	-446,111
会合費	250,000	146,060	103,940
事務所賃借費	400,000	365,555	34,445
業務職員給与	600,000	600,000	0
租税公課	70,000	64,100	5,900
予備費	200,000	0	200,000
合 計	6,100,000	5,061,325	1,038,675

財産目録

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
現金預金	
現金 現金手元有高	16,647
預貯金	
普通預金 埼玉りそな銀行 行田支店 4187540	2,694,357
普通預金 埼玉りそな銀行 行田支店 4085314	2,582,461
郵便貯金 郵便貯金 (00120-2-48444)	1,692,964
積立基金 有価証券 (取得価格)	1,327,965
資産合計	8,314,394
II 負債の部	
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	8,314,394

貸借対照表

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
現金	16,647
普通預金	5,276,818
郵便貯金	1,692,964
積立基金	1,327,965
資産合計	8,314,394
II 負債の部	
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	8,314,394
負債及び正味財産合計	8,314,394

有価証券の金額は取得金額である。

内訳 東京電力株式 1,983株 (内登録株19株)
東京瓦斯株式 11,254株

平成二十年度(財)忍郷友会役員名簿

理事										監事									
会長	松平 忠昌	副会長	江草 忠敬	副会長兼東京支部長	渡辺 栄一	副会長	小山 博	事務局長	加治 久明	理事	新井 友一	理事	碓井 勝也	理事	大野 年司	理事	黒瀧 陽夫	理事	小池 英輔
理事	清水 龍男	理事	清水 義夫	理事	鈴木 秀憲	理事	田代 敬二	理事	中川 邦明	理事	堀 岩夫	理事	宮川 公男	理事	矢澤 大和	理事	山本 憲作	監事	岩崎 安裕
監事	大澤 誠	監事	榎本 晃三	監事	江利川 毅	評議員	江原 史郎	評議員	江草 祥子	評議員	永島 健雄	評議員	内山 優	評議員	五十幡和彦	評議員	井上 啓子	評議員	市川 芳正
評議員	飯塚 利男	評議員	飯田 芳幸	評議員	新井 啓介	評議員	青柳 憲助	評議員	坂卷 敏夫	特別会員	阿部 正靖	特別会員	安藤 敬一	特別会員	柳原 承光	顧問	柳原 承光	顧問	清水 孝男
名譽理事	佐藤孝太郎	名譽理事	清水 孝男	顧問	柳原 承光	特別会員	阿部 正靖	特別会員	安藤 敬一	特別会員	坂卷 敏夫	評議員	青柳 憲助	評議員	新井 啓介	評議員	飯田 芳幸	評議員	飯塚 利男
評議員	遠藤 初枝	評議員	大谷 純一	評議員	岡安 徳一	評議員	小川 雅以	評議員	奥貫 健一	評議員	小澤 誠邦	評議員	川辺 秀夫	評議員	木嶋 清	評議員	木村 義	評議員	木元 紘一
評議員	倉持成一郎	評議員	木暮 照子	評議員	小菅 克祥	評議員	斎藤 準一	評議員	鈴木貞二郎	評議員	瀬山 文孝	評議員	高島 謙一	評議員	戸ヶ崎直司	評議員	戸塚 義男	評議員	長島 康雄
評議員	長坂 隆夫	評議員	永沼敬一郎	評議員	西澤 脩	評議員	根岸 仁司	評議員	橋本 恭一	評議員	長谷川雅敏	評議員	福島 仲悦	評議員	藤倉 浩	評議員	細井 保雄	評議員	松平由美子
評議員	松本 皓一	評議員	松岡 由浩	幹事	長谷川幸司	幹事	鈴木 淳一	幹事	松岡 由浩	幹事	内田 善康	幹事	長谷川幸司	幹事	長谷川幸司	幹事	長谷川幸司	幹事	長谷川幸司
幹事	中川 邦明	副幹事長	大澤 誠	副幹事長	渡辺 久記	副幹事長	坂田 幸彦	副幹事長	長谷川雅敏	副幹事長	五十幡和彦	副幹事長	飯島 千裕	副幹事長	小沢 健一	副幹事長	葵沢 伸浩	副幹事長	川島 亨
幹事	新井 誠	副幹事長	瀬山 文孝	副幹事長	長島 豊	副幹事長	松岡 由浩	副幹事長	鈴木 淳一	副幹事長	内田 善康	副幹事長	長谷川幸司	副幹事長	長谷川幸司	副幹事長	長谷川幸司	副幹事長	長谷川幸司

快適ガスライフ

サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして

(株)清水アーネット

第二十三回浮き城のまち行田

「少年の主張大会」

平成二十年七月二十六日(土) 十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十三回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えている



清水 龍 男

ことを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、(財)忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十三回目になります。発表者は小学校六年生十六名と中学三年から八名の二十四名の生徒でテーマは学校・家庭・地域社会・環境・平和・将来の夢など力強く発表していただきました。特に本年は「命の重み・夢・家族・環境」をテーマに発表される生徒が多かったと感じました。来賓挨拶の中で当財団の松平会長から二十三回の歴史の重みを感じてほしい。そして「出会いと思いやり」についてお話しをされました。心身ともに健康であるか、どんな国に生れたか、地域がどんな環境であるか、よい友人はいるか、愛情あふれた家族に囲まれているか、恵まれた環境をしっかりと大切にし、そして更に学ぶ心(向上心)、志(こころざし)

をもっているか等、挑戦する強い気持ちを持って豊かな人間性を磨いてほしい旨を述べ、(財)忍郷友会は出来ることからお手伝いをしたいと結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

最優秀者作品

四作品

生きるということ

行田中学校三年 加藤 安梨沙

私が今、ここにいるのは、父と母のおかげです。父と母が出会い、結婚したからこそ、私がこの世に生まれることができたのです。今、生きていることのすばらしさを与えてくれた両親に感謝しています。

しかし、私には、もう一つ両親に心から感謝していることがあります。それは、私が二歳になろうとするお正月に、家族でマレーシアへ旅行したときのことです。その旅行中に私はホテルで高熱を出してしまいました。

当会からは松平会長・渡辺副会長・小山事務局長・田代理事・矢沢理事・岩崎監事・奥田会員・飯島会員・遠藤事務局の参加をいただきました。

また、主催者側として保泉監事・来賓として木暮評議員もいらつしました。

来年も多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

た。水分を補給するため、母にスポーツドリンクを飲ませてもらいました。ところが、そのスポーツドリンクがのどにつまってしまう、呼吸をすることができなくなってしまうのです。白目をむいて、震えだした私に驚いた母は、同じく熱を出して隣のベッドで寝ていた父を急いで起こしました。

父はとっさの判断で、私に人口呼吸をしてくれました。母は大急ぎでホテルのフロントに電話をして救急



車を頼んだそうです。しかし、救急車はなかなか来ません。父は必死で人口呼吸を続けてくれました。そして、続けているうちに、ようやく「ほこほこ」という音が聞こえて、私の呼吸が戻ったのがわかったそうです。私は命をとりとめることができましたのです。

その後、マレーシアの国立病院へ行きましたが、そこには看護婦さんがいただけで、お医者さんはいませんでした。両親がただ救急車を待つ

ていただけでしたら、医者もいない、救急車も来ないような場所で私は死んでいたのです。

今、私は生きていることのすばらしさを感じています。中学生になって、部活動の仲間とつらい練習に耐え、県大会にも出場しました。学年のみんなとは雨の中で安達太良山に登り、苦しさの後の充実感を味わうことができました。それも全て、生きているからこそできたことです。

六月に秋葉原で、通り魔殺人事件があり、七名の方が亡くなりました。亡くなった方の多くは学生でした。みんな、まだまだ生きたいと思っていたに違いありません。これからいろいろ体験をすることがいっぱいあったはずです。それなのに、殺人者によって生きる権利を奪われてしまったのです。犯人は、自分の不幸を社会や親や他人のせいにしていました。そして、なんの関係もない人を犠牲にしてしまったのです。

確かに、生きることは楽しいことばかりではありません。テストのために遅くまで勉強をしたり、部活動の試合で勝つために、苦しい練習に耐えたりと、つらく苦しいことだってたくさんあります。でも、それを乗り

越えるからこそ、自分自身が成長し、より大きな喜びにつながるのだと思います。それなのに、自分が辛いからといって、それを他人や社会のせいにして、ましてや尊い命をいとも簡単に奪ってしまうなど、絶対にあってはならないことです。

私達の命はたった一つ、そして一度きりのものなのです。こんなにも尊いものが他にあるでしょうか。楽しいことも苦しいことも、生きていくからこそできることなのです。

私は命を失いかけたあの幼い日のできごとから、命の大切さ、そして生きることの尊さを考えてみる必要があります。そして、今、私は自分

一人で生きているのではなく、生かされているのだと考えるようになりました。だからこそ、自分の命も他人の命も粗末にしてはならない、どんなに辛いことがあっても、それを乗り越えて力強く生きていかなければならないと思うようになったのです。

私はまだ十四年間しか生きていません。これからもっともっと楽しいことや苦しいことが待っているはずですが、でも、どんなときでも生きる喜びをもち、精一杯生きていこうと心に決めています。それが父と母が私に与えてくれたこの命を、生かすことだからです。

だれもが和む世界に

見沼中学校三年 坪井 友佳里

みなさんは小さい頃、どのような絵を描いていましたか。大好きだったアニメの絵、かわいなお花の絵、自分の将来の夢など、私もそんな絵を描いていたと母から聞きました。

しかし、去年風邪をひいて病院に行ったとき、私は或る本と出合いました。そこに描かれているのは、とても子どもが描いたとは思えないよ

うな悲しみに満ちた絵でした。家が燃えている絵、人が殺されている絵、爆弾が投下されている絵。目を覆いたくなるような絵の連続に、私の心は冷たくなりました。どこの国の子どもたちの絵なのかはよくわかりませんが、本の裏表紙に「この紙に自由に絵を描いてください」とって描いた絵」とありました。

自由に絵を描いたもののなのに、なぜこんな悲しい絵なのだろう、私の心は悲しさと痛みでいっぱいになりました。

同じ地球に生まれたのに、なぜこんな違いが出てくるのでしょうか。

その理由の一つに、毎日の生活環境の違いがあると思います。日本には平和憲法があり、私たちの安全は守られています。日本が敗戦国となつて六十三年が経ちますが平和であることを当たり前のこととして生活してきました。

しかし世界に目を向けると、未だにいくつもの国で紛争が絶えず、多くの子どもたちが犠牲になっていきます。彼らには何の責任もないのに。戦争は弱い立場の子どもたちから全てを奪うのです。

では、どうしたら彼らを救うことができるのでしょうか。

まず今の現状を、言葉や絵で他国の人に伝えること、声に出すことが大切なのではないのでしょうか。私が病院で目にした本がまさにその手だての一つです。その本を目にするまでは、遠い国の人ごとだった戦争が、身近なものに感じられて「平和」について真剣に考えるようになりました。きっと私のような人も多いはずです。もっともっと多くの人に考えてもらえるように、本が普及すると

いいと思います。

もう一つ大切なことは、他人を思いやる気持ちをみんなが持つことです。これは私たちにとっても身近な問題です。平気で他人の心を傷つけたり、やられたらやりかえすという発想が、戦争の根底にあると思うのです。まず相手の立場にたつて考える、相手を思いやる気持ちを持つことが大切です。

戦争や紛争に巻き込まれ、涙を流して苦しんでいる子どもたちは「嬉しい」「楽しい」「幸せ」などの言葉を知らないかもしれません。笑うことも忘れてしまったことでしょうか。私が見た本の中の子どもたちは今何をしているのでしょうか。生きているのでしょうか。彼らが描く絵が笑顔にあふれ、「嬉しい」「楽しい」「幸せ」なものになるように、私もできることをやっていきたいと思っています。

みなさん、「平和」という字を思い浮かべてください。「平等に和む」と書きます。世界中の子どもたちが、同じ環境の中、平等に穏やかな生活が送れることが「平和」の意味だと私は思います。世界中の子どもたちに、真の平和が訪れますように。

社会のために私が出来る事

太田西小学校六年 横川 莉菜

私のふるさととはここ行田市。この町で生まれ、この町で育ちました。私は、この町が大好きです。毎日、わたし達のためにパトロールをしてくれるおじさん、元気のよいあ

いさつを返してくれる近所のおばさん、いきいきとした素敵な人達。二千年ものねむりからさめて咲く古代蓮、五世紀後半に作られた古墳

群。古代の人々からずっと愛されている歴史ある行田市。

太田西小学校では、学区内にある古代蓮の里に毎年全校で遠足に行きます。一年生から六年生までのたて割班で楽しく遊びます。その後、ゴミ拾いをしますが、毎回ほとんどゴミはありません。

社会科の勉強で行ったさきたま風土記の丘もきれいでした。きっとそれが私の気付かない所でゴミを拾ってくれたのでしょう。あるいは、おとずれた人々がよごさないように気を付けてくれたのかもしれない。気持ち良い場所です。

先日、家族である公園に遊びに行った時のことです。公園は、バーベキューのゴミやペットボトル、コンビニのふくろがちらかっていました。私はきたないなと思いました。手がよごれるのはいやだし、みんなが拾ってないからいいかいというわけをして見て見ぬふりをしました。そして、何より自分のゴミを自分で片付けない人が悪いなと思いました。

ところが母は、ちがっていました。「りな、ゴミが落ちているよ。」と



言うより早く拾い始めていたのです。しぶっていた私に「りな、ゴミを拾うことはいやで面どうくさくて大変かもしれないけれどきれいになると気持ち良いでしょう。ゴミを拾わず、通りすぎたり、道ばたにゴミを捨てることは恥ずかしいことなのよ。」と教えてくれました。たしかに母は、家でも外でも自分のゴミでなくてもよく拾い片付けます。小さいころの私は、そんな母とともにおもしろがってゴミをよく拾いました。最近の私は、見て見ぬふりをしている方が多かったです。母の一言を聞いて、私は、はずかしくなりました。拾っている間も、人の目が気になりましたが、勇気を出して母と

温かさと思いやり

東小学校六年 羽 鳥 綾 花

みなさんは、病気で入院したことがありますか。私は、ぜん息の発作のために生後八ヶ月から何度も入院をくり返しています。

二年生で五回目の入院をした時のことです。

この時は個室がいっぱい、大部屋に入院することになりました。その部屋には私より小さい子が入院し

ともに拾いました。母のせなかを立て派に見えました。きれいになった公園を見てやってよかったなと思いました。そして、母をほこりに思いました。一人の力は小さいけれど、一人の力が美しい環境を作ると思いました。

私は行田市が好き。だから、近所のパトロールをしてくれるおじさん、元気のいいあいさつを返してくれるおばさんのように自分の出来る事から行田市のために役に立つ人になりたいと思います。ゴミが落ちていたら進んで拾いたいと思います。皆さん、行田市のためにできることから始めてみませんか。

ていて、泣いたりさわいだりするの、頭がズキズキしました。となりのベッドの子のせきで一晩中眠れなかったこともありました。毎日つらい事の連続なので、早く個室に入り、静かにねたいと思いました。

でも、日が経つにつれて私はあることに気が付きました。同じ部屋のお母さんや子ども達が、まるで一つ

の家族のように仲良くなっているのです。ついこの間まで知らなかった人達なのに、私のことを心配して「がんばろうね。」とはげましてくれたり、おもしろい話をして痛みやつらさを忘れさせてくれたりするのです。私もとなりのベッドの子の点滴が終わったら、ブザーで看護師さんと呼んであげたり手紙交かんをしたりして、とても仲良くなりました。みんな、痛くて苦しいはずなのに、笑顔が増えていきました。

入院して何日か経つとクリスマスになりました。「入院さえしていなければ今ごろは楽しいクリスマスなのに」と、さびしい気持ちになっていた時、とつ然私達の病室にトナカイとサンタさんが現れたのです。トナカイはいつも優しく世話をしてくれる看護師さん、サンタさんは私の病気を治りようしてくれるお医者さんでした。さらに看護師さんがケーキや一人一人に合ったプレゼントを手渡してくれました。「お医者さんや看護師さんは私達がさびしい気持ちでないように、クリスマス会を計画してくれたんだな。」と、とてもうれしくなりました。その時とった写真を見ると、今でも病院の人たちの温かさを思い出し、胸がいっぱいになります。

また、入院中ずっと付きそい「が

んばろうね」と言い続けてくれた母、毎日面会に来てくれた父にも、どれだけはげまされたことかわかりません。

私は病気をくり返してしまふ自分の体がいやでしたが、入院の体験で学んだことがあります。それは、「つらい時にはげましてくれる周りの人の温かい言葉や思いやりは、暗い心の中に光を与え、つらいことを乗り越える力になる」ということです。

この体験を生かして、相手の立場に立った思いやりを大切に、温かく接することを忘れずに生きていきたいと思っています。



第八回 三端懇話会

木 暮 照 子

八月二十七日、第八回三端懇話会
が実施されました。行田市内八中
校より各二名、進修館高校より四名、
合計二十名の生徒さんが参加しまし
た。当会からは小山事務局長、田代



氏、矢澤氏、山本氏、井上氏、遠藤氏が参加されました。商工センターよりバスで霞ヶ関ビルに向かいましたが、先ず田代氏より忍郷友会の紹介、三端懇話会の趣旨、江草基金など、この会の目的についてお話しがありました。その後、参加者の自己紹介や将来の夢などを語りながら、和気あいあいの車中でした。将来の進路が具体的に決まっている人が多く、頼もしい限りでした。フランス料理のマナーについては、レジメに沿って私から説明をさせていただきましたが、関心が高いようで、目を輝かせて聞く姿に好感が持て、我々と生徒たちに信頼関係が生まれたように感じました。交通渋滞もなく予定より早めに到着し、三十四階霞会館より国会議事堂や、総理大臣官邸などを見下ろし、生徒たちは緊張しながらも懇話会の目的を理解し、これから始まる行事に胸を躍らせているようでした。松平会長、渡辺支部長もご来場になり、講演会場へと移動しました。

今回のゲストは、埼玉新聞社社長

丸山晃先生で、ジャーナリストとして第一人者であり、また、さいたまの風土・歴史の深い知識を有する方でもあります。ご講演では、埼玉のふさと、さいたま古墳群についての歴史的意味とその価値を、さらに、古墳群から見えてくる古代国家の成り立ちなどを詳しくまたわかり易くお話し

してくださいました。生徒たちは自分たちの生活しているこの土地がかくも壮大な歴史を形成してきた舞台であったことを啓蒙され、嬉しく思い感動していたようです。私たちも同様の想いをいたしました。また、人生へのアドバイスとして「目標を持った瞬間に壁ができる」・「挫折、失敗、悔しさで成長できる人間に」など、具体的な例を挙げてお話しをしてください、丸山先生の情熱的な生き方に会場は熱気に包まれました。「志を、夢を大事に。急がば回れ。」という大きなメッセージを



三端懇話会に出席して

県立進修館高校 村田 秀 俊

今回お招き頂きました霞ヶ関東京会館での三端懇話会は、出席が決ま

った時から楽しみにしておりました。日本の首都である東京の国会議

いただきました。講演会の後フランス料理のフルコースを味わいました。支配人からの丁寧なご指導のもと、ナイフ、フォークの使い方もスムーズに楽しく食事をする事ができました。最高の食材で上品な味を堪能して幸せなとき刻が流れました。きっと将来、この経験が役に立つと思います。窓の外では夕暮れから夜のとなり帷に移り、その夜景の素晴らしさに一同思わず感歎の声をあげました。帰路はそれぞれが胸に思いをかみしめながら、無事行田に戻りましたが、我々にとっても大きな感動の一日でした。

事堂がある霞ヶ関で行われると聞き、わくわくしていました。

当日の行きのバスでは、段々と都会に変わってゆく景色に興奮しきりでした。行田では見る事のない密集したマンションやビル群。新鮮な光景に思わず目をうばわれました。

会場のある東京霞ヶ関ビルに到着し、三十五階から見た景色にも圧倒されました。国会議事堂や首相官邸を上から見下ろしたのは生まれて初めてでした。

三端懇話会がスタートし、ゲスト



の埼玉新聞社取締役社長である丸山晃氏の講演が始まり、氏の考えや、現在の仕事等を聞かされました。特に地元・行田市についての様々な話は聞いていて飽きず、とても為になり、改めて行田の事を知り、行田を好きになる事ができました。

第一部が終了し、第二部の会食の時間になりました。フランス料理のフルコースを食べる事などは人生初の経験でした。緊張していましたが、忍郷友会の方が丁寧に教えて下さいました。テーブルマナーに注意しながら、席に着きました。出された料理はどれも美味しい物ばかりでした。

流石、東京は霞ヶ関にあるお店だけがあります。ゲストの丸山晃氏や会長の松平忠昌氏との話を交えながらの食事はとても楽しいものでした。デザート後のコーヒーを飲み終え、ふと外の景色を覗くと美しい夜景が私の目に飛び込んで来ました。昼間に見た物とは全く変化した霞ヶ関を望んで、しばし私は心奪われました。

一流の場で、一流の人物と交流し、一流の料理を食す。今回の会には私にとってとても良い経験となりました。今後又勉学に励む気力を得る事ができ、とても満足しています。

これからの高校生活も、最後に自分が満足出来るよう全力で取り組み、うと思えた一日でした。

身近なことから学ぶ

忍中学校三年 嶋村 有加里

私は今回三端懇話会に参加して、多くのことを学びました。

まずは、食事の時のマナーについてです。私は今まで本当に基礎的なことしか知りませんでした。ナプキンの使い方からコーヒーの飲み方まで、初めて知ったことばかりでした。なので、とても良い勉強になりました。次にこのようなお食事をする機会があれば、自信を持って振る舞うことができるはずです。

次に、丸山さんが行田の歴史についてとても詳しいことに、素晴らしいと感じました。自分の住んでいる町について、これほど関心を持ってくださる人がいると思うと、とてもうれしいです。しかしその反面、私は十五年も行田に住んでいるにもかかわらず、行田について知らないことがまだまだたくさんあることに気がつきました。

また、私は将来語学を学び、いろいろな国を訪れたいと思っています。そのことをお食事のときにお話ししたところ、外国へ行けば必ず日本のことを聞かれる。だから、外国へ行くにはまず日本のことをしるなければ

ばならないということを聞きました。確かにそうです。私は外国のことに興味を持ってばかりいて、日本のことについて知るといふ大切なことを忘れていました。これからは、日本や行田の文化や歴史にもっと関心を持って勉強していこうと思います。

丸山さんがおっしゃったように、夢を大切にして、挫折や失敗を経験しながらも、自分の力で壁を乗り越えられる人間になりたいです。今回学んだことをこれからの生活に生かして夢をかなえ、そして将来立派な人間となれるように努力していきたいと思っています。

最後に、今回のような素晴らしい会に参加させていただき、ありがとうございます。



進脩塾活動について

進脩塾主幹 田代敬二

① 孟子講座始まる

御高齢の為辞退された柳橋由雄先生の後任の講師として平成十五年二月から荒井桂先生をお迎えして継続されて来た進脩塾東洋思

想講座も、平成二年開塾以来実に一四八回を数え、「大学」「中庸」「論語」と続いてまいりましたが、その論語も八月を以って無事終了いたしました。



そこで今度は四書のうち残る「孟子」を講義して頂くことになり、ぎょうだ市報その他を通して受講生を募ったところ二十余名の希望者があり、従来の塾生と合わせて四十名になんなんとする盛大な教室となり、荒井桂先生の該博な知識と温かな人柄により、毎回楽しく充実した講座となっております。



テキスト

1 「孟子定本」安井衡(息軒)訂

2 「講孟簡記」吉田松陰

開催日 毎月第四土曜日

午後六時二〇分より

開催場所 行田市商工センター

第4会議室

②

素読教室

平成十七年度より小学校低学年児童を対象にスタートした素読教



室は四年目を迎え、上級組は論語百章、漢詩十二首をマスターし、現在は「大学」の素読にはげんでいるが、その活き活きとした目が頼もしい。

内容は次の通り

上級組(十二名)

「大学」「漢詩」

「俳句」

初級組(九名)

「論語」「漢詩」

「俳句」

十分（上級組）
午前十時〇〇分～十時
四十分（初級組）
開催場所 行田市郷土博物館（講
座室）



振興会との共催による「漢字文化
講演会」は土屋秀宇先生（日本漢
字教育振興会理事長）をお迎えし
て左記の通り行われました。
日 時 平成二十年六月二十八
日（土）午後二時より～
場 所 行田市商工センター

四〇一会議室
第一部
（午後二時〇〇～二時
四〇分）

素読教室・初級組（漢
詩）

上級組（俳句・大学）

第二部
（午後二時五〇分～四
時三〇分）

親子漢字セミナー
「漢字って、おもしろいな！」



読書推進運動について

読書推進委員長 大野 年 司

皆様ご存知のように本会読書推進
委員会は今迄、江草委員長を中心に
大変活発な活動が展開され大きな成
果を上げてまいりました。

例えば読み聞かせボランティアに対
しての研修会、読書推進支援の為の
講演会、小学校に図書への寄贈等が市
の教育委員会の後援を頂きながら行
われてまいりました。

その結果市内の小学校にて早朝読
書がスタートしたり、図書館の利用
率が向上したりして、かなりの成果
を出してまいりました。

その素晴らしい活動を元にさらに
ステップアップして行く事が、私達
今年度の委員会の役割と心得ます。

その為の委員会を既に3回程開催
し、読書推進の現状把握と今後の方
向を現在検討中であります。

ただ明らかな事は、既に読書推進
をして頂いているボランティア様の
ような前向きな方々や、教師の皆様
も多勢いらっしゃって、さらに皆様

も積極的にステップアップを考えて
いて下さるという事です。

そこで今年度以後の考え方として
は、大きく3つの方向性をもって事
業を推進して行く所存です。

一つは、今迄積み上げて来られた
実績を元にさらに一歩前進、進化さ
せて行く事。

二つ目に、先進地、成功事例を幅
広く調査研究し、そこから我々自
身が学び、今後に生かして行く事。

三つ目に、市内で今行われている
読書推進に関する諸々の事業の現状
を調査研究し、それらにご協力でき
る形を検討し、今後の運動として行
く事。

以上のような基本的な考え方で、
最終的には皆様のご協力を得ながら
子供達の読書推進を計って行く所存
です。既に先進地の情報もありがた
い事に先輩から、情報提供をいろい
ろ受けております。

今後皆様のご指導ご鞭撻の程よ
ろしくお願い申し上げます。

第七回 全国藩校サミット 熊本大会の報告

進脩塾担当 川 田 隆 生

梅雨前線の影響による大雨にもかかわらず旧藩士のご子孫や藩校教育関係者の方々が全国各地から集り盛大に六月二十一日熊本市民会館において開催されました。

漢字文化振興会及び藩校サミット関係者が「温故知新」の精神によりわが国の古き良き伝統文化の継承と発展のために精力的な活動を続け年々内容・参加者とも拡充をみせております。

おりしも、昨年熊本城築城四百年を迎え本年は百三十年ぶりに甦った熊本城本丸御殿の一般公開にあわせての記念行事となりました。

テーマ

学而創新・

学んで新しきを知る

熊本風の風・仁義礼智信

一、歓迎芸能

能楽式 金春流 仕舞

羽衣半能 高砂

安土桃山期よりの伝統能を人間重要無形文化財保持者本田光洋による舞



二、児童論語暗誦発表

宇土親子論語教室 孝経 素読

小学校低学年生十二名と大人

八名

蛍光保育園

論語カルタ 暗誦袴姿の年長組

三十人による暗誦

三、記念講演

江戸の徳育と平和教育

徳川 恒孝

徳川宗家十八代当主善政で国を富ませ領民の支持を得なければ戦争には勝てないと学んだ戦国大名が生き残り江戸時代を迎



え、その根底には儒教があり、二百六十年の平和に繋がった

四、基調講話

肥後時習館に見る人材育成

堤 克彦

元菊池高校教諭 文学博士 有能な藩史の育成と確保という

「実利」的な「人材教育」にあった。

初代校長秋山玉山が教育運営の指針を作る 幼少期から徹底した初期教育が行われてこそ、初めて孝悌・忠信を習得した藩史の育成が可能であると。

五、記念講演

秋山 玉山 漢詩六編
石川 忠久先生

前二松学舎学長
江戸中期の荻生徂徠学派
時習館初代教授

芙蓉峰を望む 五言絶句
春に感ず 五言絶句
客中九日病見て杯を把ず 七言絶句

九日独酌 七言律詩
旅館夜雨 七言律詩
鴻門高 七言律詩

六、パネルディスカッション

「藩校教育を今日に生かす」
司会 漢字文化振興会事務局長

白石 宗靖

パネリスト

奥田 七寿

(忍藩 進脩館) 埼玉

佐藤 厚潮

(白川藩 立教館) 福島

立花 民雄

(柳川藩 伝習館) 福岡

筑紫 凡三

(肥後藩 時習館) 熊本

藩校の流れを汲む各地の教育関係者達による活動発表



忍藩……進脩塾活動 定例講座
・公開講座 素読教室

週三回他の活動

白川藩……人づくりは我つくりふ

るさと研修月一回の活動

動

柳川藩……子供塾 論語・漢詩の

素読・現代詩 月一回

の活動

七、大会宣言採択

藩校がはたしてきた人格教育を
学校教育だけでなく、社会教育、
家庭教育 育に生かした地域づくり、
文化づくりをする。

八、次回開催地

長岡藩 牧野忠昌

牧野十七代当主挨拶

参加して感じたことは、戦後日本での歴史的仮名遣いと正漢字に代表される日本本来の国語教育をとめてしまい、特に漢字教育は多くの漢字を使うことより使わないことを教えてきました。

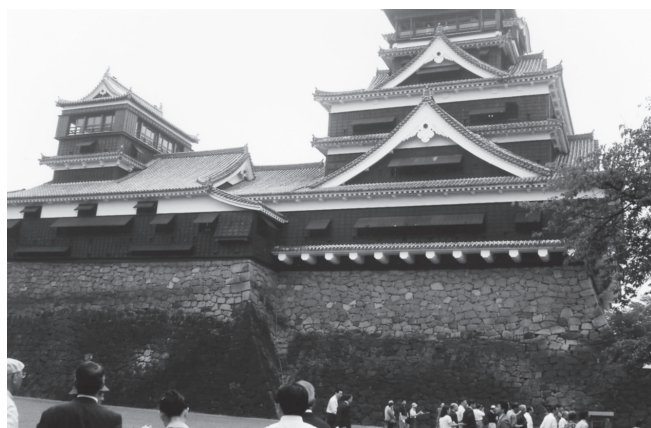
その結果、千数百年に亘って培ってきた日本の伝統文化“古典文化や思想”更にその背後となった中国の古典文学や思想が遥かに縁遠いものとなってしまいました。

多くの人々は、わずか百年ほどまえの人々が書き残した手紙、記録、文章さえもほとんど読めなくなっています。

まして、明治維新以前の武士を中心とした知識階級が精魂込めて何を学問していたのか、おそらく今日の義務教育、高等教育関係者達も理解する人は少ないことでしょう。

このようなわが国の状況を思うとき、サミットを通して各地に残されている歴史、文化を再認識、再考する機運がかつてないほど高まっているとサミット後の交流会に参加した藩校関係者や熊本県民の方々から聞こえてきました。

その中で、奥田さんが全国藩校



活動の代表として進脩塾活動を発表して、定期的な活動内容 特に毎週土曜日に行われている素読教室は、全国の藩校関係者から注目され、細川元首相夫人からも激励のお言葉を頂いた次第です。

全国藩校サミットは、歴史や先人達の偉業を学び現在に活かす意義深い活動にて今後も参加したいと願っております。

平成二十年度 会員名簿

法人会費

(会費二万～五万円)

(有)羽生モータースクール
(株)有斐閣
大野建設(株)
公認会計士
(有)中央百貨店
ガクヤ(株)
東旭(株)
小山商事(株)
(株)清水アーネット
(株)協同バス
田代商事(株)
(株)サンワックス
(有)行田セレモニー
渡辺(株)

五十幡和彦
江草 忠敬
大野 年司
奥貫 健一
川辺 秀夫
小池 英輔
小菅 克祥
小山 博
清水 孝男
鈴木 秀憲
田代 敬二
山田 晃
横川 福治
渡辺 栄一

役員会費

(会費一〇〇〇〇円)

青柳 憲助
飯塚 利男
井上 啓子
永島 健雄
江原 史郎
大谷 純一
小澤 誠邦
木嶋 清
倉持成一郎
斎藤 準一
須郷 榮司
(社)行田青年会議所
戸塚 義男
長島 康男

新井 啓介
飯田 芳幸
岩崎 安裕
江草 祥子
江利川 毅
岡安 徳一
加治 久明
木村 義
黒渕 陽夫
清水 龍男
鈴木貞二郎
中川 邦明
永沼 督一郎

新井 友一
市川 芳正
碓井 勝也
榎本 晃三
大澤 誠
小川 雅以
加藤 力也
木元 紘一
木暮 照子
清水 義夫

正会員会費

(会費五〇〇〇円)

西澤 脩
長谷川雅敏
古市 實
堀 岩夫
松本 尚
武笠 勇
諸貫 健一
柳原 承光
吉川 正就

根岸 仁司
福島 伸悦
保泉 欣嗣
松平 忠昌
水谷 剛蔵
村賀 英介
八木原 保
山本 憲作
渡辺 久記

橋本 恭一
藤倉 浩
細井 保雄
松平由美子
宮川 公男
本山 禎一郎
矢澤 大和
横田 保良
綿貫 守男

進脩塾会費

鈴木スイ子
関根 俊一
滝田 和夫
田島 正雄
棚沢 孝一
富田 文子
新島 璋紀
野村 正幸
長谷川幸司
長谷見輝生
半田 太
二味 宏
古橋 一廣
松岡 閑男
松本 健一
丸山 綱男
武笠 直義
本山 浩
矢口隆一郎
山本 正幸
吉田 修
堀籠 秀直
若松 良一
渡辺 幸子

鈴木 寿子
瀬山 文孝
滝田 芳人
田代克太郎
津田 馨
長島 豊
野口 昭夫
芳賀 道子
長谷川志づ枝
羽鳥 利明
平井ユリ枝
古市 恒裕
細谷 茂樹
松岡 由浩
松本 光弘
三島 務
目崎不二夫
森 安正
安田 裕信
横山 寿夫
吉田 稔
渡辺 昭孝
渡辺 邦道

鈴木 達哉
高橋 貞雄
田熊 宏次
田中 利幸
富田 暁子
長野 武俊
信沢 精一
蓮見 牧子
長谷川盛雄
羽鳥 弘
東 端芳
古沢 勇治
増山 忠男
松田 招蔵
丸山 和雄
水谷 良二
持田 朋春
森田純之助
安野 崇雄
横山 晴司
吉田 稔
渡辺 邦道

(平成二十年十一月三十日現在)

(一〇〇、〇〇〇円)

鈴木 秀憲

(五〇、〇〇〇円)

清水 孝男

田代 敬二

(三〇、〇〇〇円)

鈴木貞二郎

小山 博

横川 福治

小沢 誠邦

(二〇、〇〇〇円)

木村 義

川辺 秀夫

木嶋 清

(一〇、〇〇〇円)

山本 憲作

新 永次

中川 邦明

渡辺 邦道

野村 昭

矢澤 大和

奥田 七寿

遠藤 初枝

※一部入金予定者を含む

平成二十年度 事業行事経過メモ

1、総 会

①定時総会開催

(理事・評議員会、講演会・懇親会)

日 時 平成二十年六月二十一日(土)

参加者八十四名

午後二時～午後八時

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア
来 賓

衆議院議員

小島 敏男様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様

行田市長

工藤 正司様

行田市議会副議長

新井 孝義様

行田市教育委員会教育長

丸山 綱男様

行田商工会議所名誉会頭

清水 孝男様

行田商工会議所会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所副会頭

川辺 秀夫様

行田ロータリークラブ会長

小林 一好様

行田さくらロータリークラブ会長

矢澤 大和様

行田ライオンズクラブ会長

野口 昭夫様

松平忠昌議長より平成十九年度の
事業および決算、監査について報告
があった

記念講演

「人生の心得」

ー父安岡正篤に学ぶー

講 師 安岡 正泰様

(財)郷学研究所・安岡正篤

記念館 理事長

懇親会 アトラクション

「原正夫ジャズピアノの世界」

～アメリカの響き～

出 演 原 正夫

2、役員会

①理事・監事合同準備会

日 時 平成二十年四月二十三日(水)

午後三時～午後五時三十分

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成十九年度事業報告書(案)

について審議

2 平成十九年度決算報告書(案)

について審議

3 平成十九年度の事業・決算に

係わる監査

4 役員改選(案)について

5 平成二十年六月二十一日(土)

総会開催について

6 その他

定時総会日に開催される理事

会・評議員会に提案する審議事項

並びに総会報告事項の決定、総会

の運営進行等について打ち合わせ

②理事会、評議員会

日 時 平成二十年六月二十一日(土)

午後二時～三時三十分

会 場 ベルヴィアイトピア

審議事項

1 平成十九年度の事業報告がな

され審議・承認

2 平成十九年度の決算報告がな

され審議・承認

3 平成十九年度の事業に係わる

監査について報告された

4 役員改選について審議・承認

5 運営会議設置について審議・

承認

6 その他

③理事・監事合同準備会

日 時 平成二十年十一月十九日(水)

会 場 行田市・本部事務所

審議事項

1 平成二十一年度(平成二十一

年四月一日～平成二十二年三月

三十一日)事業計画(案)につい

て

A「進脩塾」事業計画案について

審議

B「浮城のまち行田少年の主張大

会」事業計画案について審議

C「三端懇話会」事業計画案につ

いて審議

D「読書推進実行委員会」事業計

画案について審議

2 平成二十一年度(平成二十一

年四月一日～平成二十二年三月

三十一日)予算(案)について審

議

3 平成二十一年六月の理事会・

評議員会、総会・賀正会の日程

について小山博事務局長より、

平成二十一年六月 日(土)に開催

したいとの提案があり審議

4 その他

3、教育奨励事業

①進脩塾活動

公開講座

第5回 「漢字文化講演会」と「素読教室発表会」

日時 平成二十年八月二十八日(土)

会場 行田商工センター

講師 土屋 秀宇 先生

「漢字って

おもしろいな!」

受講者六十五名

定例講座

四月「論語」 荒井 桂 先生

五月「論語」 荒井 桂 先生

六月「漢字文化講演会」 土屋 秀宇 先生

八月「孟子」 荒井 桂 先生

九月「孟子」 荒井 桂 先生

十月「孟子」 荒井 桂 先生

十一月「孟子」 荒井 桂 先生

※行田ケーブルテレビにて放映

(内容) 進脩塾の目的、講義、

受講者の感想、今日の論語から

素読教室

田代敬二氏及び小林康夫氏が講

師として低学年児童(四歳〜八歳

迄)を対象とした、論語・漢詩・

俳句の素読教室を毎週土曜日に開

催。

②「第二十三回・浮城のまち

行田少年の主張大会」

日時 平成二十年七月二十六日(土)

会場 行田市教育文化センター

「みらい」ホール

発表者 市内小・中学校児童・生

徒、父兄等

二五〇名参加

本会、松平忠昌会長より記念品を贈呈した。

③第八回「三端懇話会」

日時 平成二十年八月二十七日(水)

会場 東京霞ヶ関ビル三十四階

霞会館

講師 丸山 晃 先生

聴講者 行田市内の中・高校生

20名参加

本会から、松平忠昌会長、渡辺栄

一理事、山本憲作理事、矢澤大和

理事、木暮照子評議員、井上啓子

評議員、遠藤初枝事務局員が出席

された。

④読書推進実行委員会開催

日時 平成二十年八月二十二日(金)

(第一回)

九月三十日(火)

(第二回)

十一月六日(木)

(第三回)

会場 本部事務所 会議室

議題

1) 本年度事業について

2) 読み聞かせボランティア

交流会について

3) 先進地視察について

4、慶 弔

お悔やみ申し上げます

高橋 信一 様

(平成二十年九月七日逝去)

小島 慶三 様

(平成二十年八月三十日逝去)

板倉 安男 様

(平成二十年十一月二十八日逝去)

5、会員増強対策

新入会者紹介(敬称略 入会順)

紹介者(小山 博)

・小林 一好

熊谷市上中条一六五二一三

〇四八―五二二―一二三二

・五十幡和彦

行田市長野一―一五二一

〇四八―五五六―二九四六

・小林 義和

行田市城西三一―一三五

〇四八―五五四―二二三三

紹介者(井上 啓子)

・小久保和子

行田市富士見町二―五―八

〇四八―五五三―二九七八

紹介者(遠藤 初枝)

・坂本 光代

行田市本丸五一―

〇四八―五五四―一七三四

・富田 暁子

行田市長野一〇四七

〇四八―五五六―三二二八

・滝田 和夫

行田市谷郷二―一〇―三二

〇四八―五五四―二八五七

紹介者(渡辺 幸子)

・長谷川志づ枝

行田市行田一九―四

〇四八―五五六―三四九四

紹介者(中川 邦明、大澤 誠)

・長谷川幸司

行田市忍一―五―一〇

〇四八―五五三―六三三三

・内田 善康

行田市栄町一―二―六

〇四八―五五五―一三七〇

・小沢 健一
行田市宮本一五〇八
〇四八〇五五四一八七五五

・菱沢 伸浩
行田市城西一〇二一三五
〇四八〇五五五一一一八六

・川島 亨
行田市佐間一〇一八一三九
〇四八〇五五三一〇〇〇一

・長島 豊
行田市須加二九七二一二
〇四八〇五五七一一二八六

・鈴木 淳一
行田市持田二七三一二
〇四八〇五五五一一三八四八

紹介者（清水 孝男）
・松岡 閑男
行田市斎条二九八
〇四八〇五五七一一二六二

・大谷 昭
行田市谷郷二四五八一
〇四八〇五五三一七二三

・丑久保紀美
行田市真名板二〇五二一一
〇四八〇五五九一一一三四

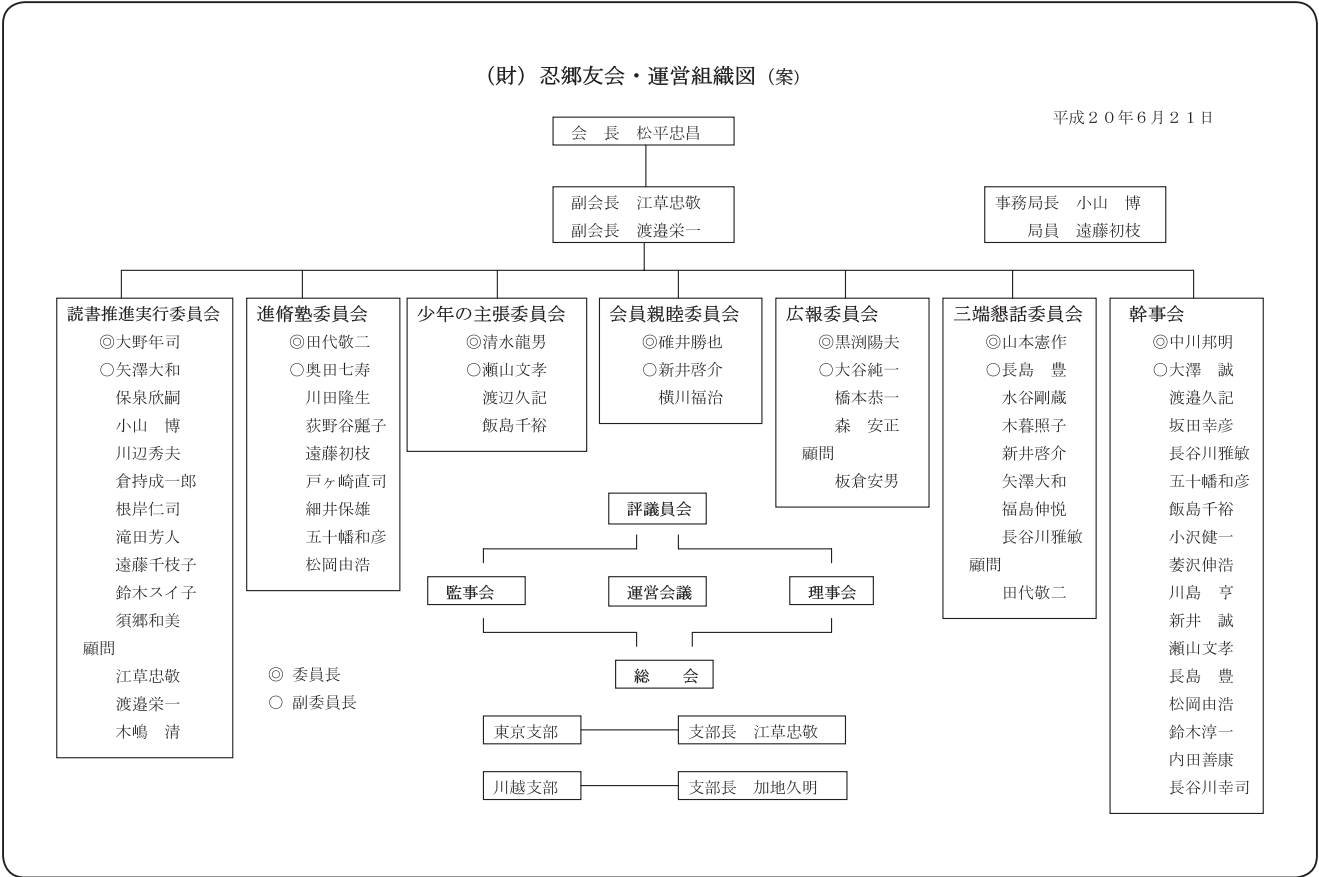
紹介者（渡辺 栄一）
・丸山 綱男
加須市久下二一三一二一
〇四八〇一六五一一五八九五

・若松 良一
行田市忍一〇二一三四
〇四八〇五五五一一七九九

紹介者（横田 保良）
・大西 義道
茨城県稲敷市押砂九三二
〇二九九一七九一〇〇六四

紹介者（大野 年司）
・飯島 伸明
熊谷市筑波三一四
八十二銀行

紹介者（松平 忠昌）
・天眼寺住職 東 端芳
台東区谷中一〇二一十四



—足袋屋が育てた偉人— 小島慶三先生を悼んで

副会長 渡辺 栄 一



た八十余冊の素晴らしい書物の内容とあいまって、正に超一流人であったことを痛感し、同郷人としての誇りと感動の高まりを憶えました。

忍郷友会と小島先生

忍郷友会においては永年理事を務め、創立八十周年記念式典の際は実行委員長の重責を担われました。創立百周年記念式典の際は、体調を崩されていた関係で欠席されましたが、記念誌には今となっては遺稿になりました「忍藩士の文化と気概が育んだ忍郷友会」と題した立派な寄稿文をいただきました。

小島先生の故郷と家柄

「しのぶ会」の壇上に飾られた、溫和で優しいような在りし日の遺影を拝見していると、同郷で幼馴染みだった私の母親から聞かされた先生の

少年時代の話を思い出しました。

「慶ちゃんは、中学生の頃から、詰襟の学生服で、腰には手拭をぶら下げて、手にはいつも本を持っていた。偉くなるような人は、小さい頃から勉強家だったんだねえ。」と云っていました。人柄はロマンチストで皆んなに可愛がられていたようです。父親は厳格で小さい頃は御仕置に土蔵に押し込められたこともあったと先生から聞きました。でもそのとき蔵の隅に置いてあった古文書をふと見つけて、文中から歴史上の大事な事実を発見されたそうです。さすが小島慶三少年ならではの感心しました。

先生のご生家は羽生町の老舗で、よく三河亀山城主時代以来四百年間松平家に随身してきた家柄とおっしゃっていた足袋屋、小島商店で、活気に満ちた店員たち、遅しくおらかなご家族に囲まれて先生は成長されました。

小島先生の経歴

慶三少年は不動岡中学から東京商科大学(現一橋大学)へ進み、卒業後企画院へ入りました。東京商大の卒論は「本邦農村協同組合史論」でした。

その後大蔵省に出向、更に軍需省発足に伴い入省、戦後間もなく商工省(後の通産省)誕生に伴い大臣官

房企画室に入り、更に石炭庁、物価庁、経済企画庁で戦後経済の混乱期の秩序回復と復興に行政側からの推進役を担っていました。その後経済企画庁を代表する日本銀行政策委員に就任されました。この多用な期間にも多数の著書をお書きになっています。

一九六三年退官後実業界に入り、日本精工(株)に入社、常務取締役営業本部長を経て代表取締役専務に就任されました。当時故郷羽生市に日本精工羽生工場を立ち上げました。

その後同社を退社してから芙蓉石油開発(株)に入社、副社長を経て代表取締役社長に就任されました。この頃大冊「北武戊辰・小嶋楓處・永井蟻伸肖像」を著作されています。忍藩の武士であった祖父兄弟が幕末維新のとき、故あって東軍(佐幕派)と西軍(勤皇派)に分かれて、それぞれ戦った事績を中心にして、戊辰戦争を復元した約七百ページに亘る書物です。この後、先生を行田ロータリークラブに初めてお招きして講演を頂いたとき、この本を先生から奨められて読みました。さすが日本の歴史に通じておられた先生でなければ纏められない労作に驚き感心し、益々先生の大ファンになってしまいました。

小島先生の教育活動

その後先生は永年に亘り積み上げてきて、日本を知る歴史経済学者としての信念ともいえる「人間復興の経済学」を「ヒューマノミックスの世界」と題して著書を発刊しました。この理念を説く小島塾を後に全国各地に設置、亡くなるまでご活躍されていました。

一九八四年先生は財日本立地センターの理事長に就任され、一九九二年退任されるまで八年間その重責を果たされました。その間、産業構造審議会委員、経済同友会幹事をはじめ多数の要職を務められましたほか、上智大学、成蹊大学、名古屋大学及び母校の一橋大学の講師などもお勤めになり、合わせて「小島塾を主宰され、全国的にご活躍されていました。

参議院議員に当選

一九九三年参議院議員選挙の際は、細川護熙氏に推されて出馬しましたが、繰り上げ当選をして一期務めました。選挙運動期間中先生は行田にも見えましたが、街頭宣伝車の屋根に登る姿はハラハラして今でも目に焼きついてます。でも最も参議院議員らしい議員ではなかったでしょうか。

国家としての日本の生き残りのために

一九〇〇年行田市制施行五十周年記念事業だった行田にゆかりの一流人による「行田賢人講演会」開催の際、先生にご講演をお願いしたところ、お体の加減で小さい文字が全く読めない状態でしたが、故郷への篤き思いから快くお引き受けくだされ、八十分に亘り「二十一世紀の日本—これからどうなる」と題して、ノー原稿でお話してくださいました。正確なデーターの数字を含む素晴らしい内容のご講演で皆さんが感銘しました。今となつては最後の講演会となりました。

その際、最後に先生は、国家としての日本の生き残りのためには、先ず安全保障を真剣に考えること、内からはモラルの低下と人間性の喪失を心配され、歴史や伝統がないがしろにされている現状を心配され、早急な教育の誤りを正す改革を強く訴えておられました。

人類の落とし穴はモラルの崩壊からと、警告されておりました。

同時に経済にも道徳性との同一化を考える必要を強調され、渋沢栄一の道徳とソロバンの理念を例に挙げ、自由主義と自分勝手の違いを述べ、地球環境や人類の共存などの課題の克服には、今後物質文明と精神文明の共存発達が大事であると述べてお

られました。

行田市民には、関東の中心、へそに位置する恵まれた環境の行田に住まい活躍する者として、もつと誇りと自信、強い気概と勇気を持って生

きられ、リーダーシップを発揮するよう激励されました。心からご冥福をお祈りいたします。

行田市郷土博物館

第二十回企画展「林頼三郎」を見学して

広報委員 橋本 恭一



林頼三郎先生の没後五十周年にあたる本年十月十一日（十一月二十四日、表題の企画展が開催されました。林先生は明治三十八年の忍郷友会の発足時からの会員で、幹事制から会長制に移行した昭和十年より初代会長を生涯勤められました。

林頼三郎先生は明治十一年、旧忍藩士三輪礼三の四男として行田に生まれました。父親が製粉業への投資に失敗し、貧しさの中でも向学心に燃え、北埼玉郡長の林有章に見込まれて林家の養子となり、法律家の道を志しました。「平凡なことを非凡な努力をもって

成す」「泰山の霞、石を穿つ」ナポレオンにならっての一日三時間の睡眠で努力し、十九歳で判検事登用試験合格、弁護士試験合格し、私学出ゆえの妬みや左遷にも負けることなく、努力を続け、検事総長・大審院長・司法大臣と司法三長官を歴任しました。埼玉県生まれ、育ちとしては初の大任就任だったそうです。

要職を勤めながら、育英の精神あつく、母校の東京法学院(現・中央大学)で後進の指導にあたり、昭和十三年には中央大学出身者として初の学長に就任、また昭和四年には横浜専門学校(後の神奈川大学)校長に就任し、十八年間つとめました。大臣就任の折には、横浜専門学校では生徒たちが「うちのオヤジが大臣になった!」と大喜びだったそうです。

戦後は中央大学の総長に就任し、「中興の祖」と呼ばれました。中央大学が有名国立大学をしのいで、あまたの司法試験合格者、公認会計士を生んだ実学の素地には先生の果たした功績もあったのだと感じ入りました。

ご逝去の直前、行田名誉市民の第一号に推挙されました。

今回の企画展を担当した学芸員の門脇伸一氏にインタビューしました。

「企画展で見学の市民に伝えたかったこと、ポイントは?」

「行田の出身者でここまで努力を重ねて、これだけの功績をあげた人がいることを知ってもらいたいのです。行田市民として誇りが持てる郷土の偉人です。」

「企画展で一番、苦勞したことは?」

「林頼三郎先生のお宅が戦災で焼けてしまった事もあって資料が少なく、展示物集めには苦勞しました。行田郷土博物館には林頼三郎先生関係の資料が少なく、遺族や教え子の方々、中央大学、神奈川大学など関係機関のご協力でなんとか林頼三郎先生の足跡をたどる展示ができました」

今回の展示にふれてあらためて、林頼三郎先生の超人的な努力の積み重ねを確認するとともに、信念を曲げずに主張を貫く意志の強さを感じました。戦時、大政翼賛下、文科系私立大学の統廃合を目論む軍部にも枢密院「国民学校令等戦時特例案審議委員会」において「学校の廃止統合を行うのであれば諮問機関を設けるべき」など八項目にわたる意見を具申し、私立大学統合の危機は回避されました。戦争末期、戦後、食料事情が悪化する中、闇の物資に手は出さず、頬をこけさせた写真が印象的です。

象徴です。

戦後、枢密顧問官として新憲法の審査委員会において、天皇の法律上の地位、自衛権、司法省の存続などについて質問し「不満の点が多々あるにも拘らず、大局的見地より、このまま可決す」と賛意を表しつつも、政治的主権と法律的主権の峻別ができるのか・戦争放棄の規定が今日の国際情勢上当て得ているか・基本的人権については妥当と思われるが、風俗を害する出版物の様なものは制限を加える必要がある・国会を二院制としながら参議院の構成と性格が不明・国民から裁判官の能否は判断しがたく、国民審査の目的が達成されるか疑問など七項目に及ぶ疑問点を挙げ「また翻訳調が多く、日本文の香りに乏しいからより一層洗練されたものになければならない」と述べました。(企画展図録より一部抜粋)

林頼三郎先生は昭和二十二年、公職追放、更に翌年には教職追放に遭います。学内報や生徒への訓示の内容が封建的、非民主的だったというのが理由とされていますが林頼三郎先生はその内容の修養の精神は間違っていないと自説を曲げなかったそうです。昭和二十六年に追放は解かれました。

ご逝去の直後の学生大会の写真が

展示されていました。自治会旗の上に林頼三郎総長の遺影が掲げられ、右端の垂れ幕には「総長逝去に對し我々学生は深い哀悼の意を表します」とあり、左端の垂れ幕には「自治会費徴収拒否を全面撤回せよ」とあり大学当局と学生自治会が鋭く対立している状況下でも、先生のぶれない育英の志は伝わっていたのだと思われまふ。

忍郷友会九十周年記念誌に先生のご子息・林裕氏の寄稿があります。「忍郷友会などの会合から帰宅した時は、その気配で判った。まさに微醺を帯びて帰るといった趣きわめて上機嫌であったからである。口癖は『郷土を大事にしない者は、どのような地位にあらうと尊敬されない』と言うことであつた」郷土に和み、郷土を愛し、誇りに思っていた下さっていたのです。

追記…水城公園内の林頼三郎先生顕彰碑が建立後四十八年経過し、傾いて支えがつけられている状態です。修復が望まれます。

俳句



鈴木スイ子

行田市富士見町

かりん酒のラベルに小さき母の文字
 幼児の背をポンと押し春舞台
 水差しの蓋は梶の葉夕茶会

平井ユリ枝

行田市宮本

小春日や遙かなること母のこと
 ぬけ道を違えて萩の風に遭う

増山 忠男

行田市谷郷

故郷は佃祭りの暑さかな
 行く秋や白瀧茶屋の滝しぶき
 黒姫やそば会席で初夏の入り

今井 福司

行田市富士見町

声かけしうなづき心おじぎ草
 美しく暑さに起きる合歡草
 牛に鞭まぶしく揺らぐ代を搔く

三島 務

行田市藤原町

下萌や剪定鋏父のもの
 夏近し樹々のまぶしさ空に映え
 松ヶ枝朝日に映える梅雨晴れ間

阿部秀二郎

行田市長野

波退きし岩の船虫いづくより
 雑草と見過ごす昔いぬぶぐり
 駒草や風雪堪ゆる砂磯道

清水 周

行田市栄町

行く春や島影遠く水脈のはて
 千金の一語明るし山笑う
 秋暑し寸言厳しき父のこと

大木 典子

行田市行田

湯こぼれのするほど満たす寒の入り
 ねこ柳笑を浮かべて寄りそいぬ

松岡 園男

行田市斉条

登り来て夏雲遙か遭難碑
 今は過去夏の谷川初登山
 両神へ延々緑浴びる道

木村文四郎

行田市城西

青梅の色鮮やかな多摩の朝
 夏の宵信濃河口は肌寒し
 聖五月胸のはればれ人に合ふ

福島 伸悦

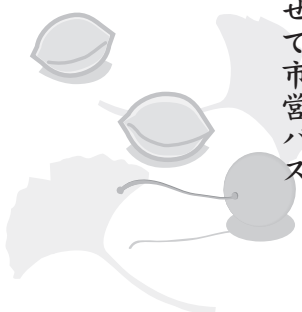
行田市須加

花無心赤白黄色人を招く
 一堤の黄冴えわたる鼓草
 垣根よりつらつら椿紅こぼす

遠藤 初枝

行田市藤原町

母似なるお話上手秋彼岸
 石榴笑む美人姉妹の通る道
 客なくも春光のせて市営バス



俳句

特別寄稿

名誉理事 清水 孝男

人づくり進め百歳今朝の春
東洋の思想を学び去年今年

創立百周年を迎えた忍郷友会は「人づくり」
に取り組んできた。
いまその事業の一つとして進脩塾で東洋思
想（中庸・論語・大學・孟子）を学んでいる



短歌

大木 典子 行田市行田

リーンリン秋の夜長に友を呼ぶ
羽根震わせて鈴虫の鳴く
金銀のみこしかついで夏まつり
見ている皆のほゝも金銀

鈴木スイ子 行田市富士見町

見上ぐれば翼のごとく輝ける
明石大橋瀬戸の夕暮れ
山吹の花手折れども訪う人の
無きまま一日長閑に暮るる

平井ユリ枝 行田市宮本

暁露に心を濡らし待ちわびて
まどろむ夢に懐ひ馳せなん
季の果てに待ちて焦がるる来ぬ人よ
こころいずこへ傍目し間に

川柳

遠藤初枝 行田市藤原町

若づくり 無理を承知で 塗ってます
やってみな 立派な評論 言った人
金はある 若さ売る店 ないだらうか
ライバルが いると何故だか 燃える恋
世界遺産 古墳もしやと 背伸びする

挽歌

飯野暹に奇す

榎本 晃三

駆け抜けし童の如き君なりし
旅うたワイン炎暑かげろふ
山とほく海はるかなる旅の絵に
きみ落日のまぼろしに染む
林住期ともに分ちし君ゆきて
痛恨さらに秋冷に寂ぶ



創作

忍沼のおしどり

田代 敬二

武州の国忍領に下忍村という村があった。昔この村に瀬兵衛という半弓の名手があった。半弓をあやつり狼をすることが巧みで鳥獣ばかりでなく時には鯉など魚を仕とめることもあった。そんな折は、水辺に佇み何刻の余も動かぬところから、かわせみの瀬兵衛と呼ばれ名されるようになった。

或る日、一日郊外に出たが一羽も得ずして空しく帰る折から忍沼にさしかかると、沼につがいのおしどりが居た。瀬兵衛はためらうことなく半弓を以て射たところ其の雄にあたった。

此の夜、瀬兵衛の夢に美婦が枕辺にたたずみさめざめと泣いている。瀬兵衛が怪しんで「何故に泣きいるか」と問うに對して、きのう忍沼にて、永年連れ添った夫を殺された。悲しみに堪えずこうして来たものでございます。此の思いにより我が身も長く此の世にあることはないであります。うといつて、一首の歌をそなえたと消え去った。

日暮るれば誘いしものをおしぬまの
まこも隠れの独り寝ぞ憂き

瀬兵衛哀れに不思議に思いつつ一夜が明けて、我が胡簾（矢を入れる筒）を見ると、そこにおしどりの雌、腹を自らくちばしにて突き貫らぬいて死んでいた。瀬兵衛これを見て感泣し、髪を切りて僧となったという。今も瀬兵衛の子孫下忍村に在りと宝性寺住職鴛鴦碑を立てて其の事を記せり。羽鳥の微なるも夫婦の情あつく殉死せしは哀れなることである。人は万物の霊長なるに、或は妻の容色衰へるを嫌い新婦を迎えるもあり、或は密夫をこしらえて遠くはしるもあり、このおしどりに遙かに劣るものと忍藩古文書の一切れにある。

忍沼の葦の葉かげに
鳴くよしきりの
かしましき声消しもせで
まこもかくれにむつみいる
鴛鴦の仲切り裂ける
さても情なきものかいな

心意気の世界を唄う

都々逸教室へのお誘い

理事 山本 憲作

どどいつは、共感の歌思い当りの歌です。歳月を超えて生き残り、庶民の心の中にほんのり明るい灯をともしのはちまたに生きる仲間たちの本音のつぶやきだからです。

トゲトゲしいストレス社会を生き抜く為に、時には辛い思いを洒落に変え、苦い思いを笑いに替える知恵が必要とされます。どどいつの中にはしたたかに生きる庶民の心意気と心暖まる情緒の世界が生きづいています。そんな隠れた楽しみの空間を知って頂きたいものと茲にお誘い申上げる次第です。

都々逸教室のあらまし

主 催 乙和会行田教室
代表幹事 田代敬二（忍郷友会理事）
師 匠 三味線・端唄・俗曲 井上啓子

（忍郷友会々員）

開催日 毎月第一土曜日 午後六時半より
会 場 「幸」 行田市向町一〇
会 費 毎月参千円（会食費及び諸経費代）

〔一口メモ〕

現在会員は二十名、毎月テーマに添った都々逸を七、八首選び、先生の指導で唄って覚える。最後に同じくテーマに添った端唄（先生の三味線と美声を堪能して締めくくる）八時から小料理「幸」の会食を味わいながらのおしゃべりタイムで時を忘れる・・・といった壺中の天を楽しんで閉会となります。

お問い合わせ先 電話〇四八―五五六―三七二八

田代 敬二方まで

財団法人忍郷友会 会長 松平忠昌 〒214-0038 川崎市多摩区生田六一一五―三六 ☎〇四四―九五五―九三三六	行田市議会	行田市 市民の皆様と共に築く行田「元氣な行田」の実現に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします。	御名刺掲載欄 (順不同)
〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四一九三 電話 〇四八―五五九―四五〇二 鴨田武	公認会計士 奥貫健一 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三一―十五―四〇一	株式会社ケイマス 代表取締役 黒渕陽夫 〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二二 TEL 〇四八―五六九―二二五一 FAX 〇四八―五六九―二二二一	堂上会 理事 柳原承光 (旧 松平忠頼) 〒100-6034 東京都千代田区霞が関三丁目二番五号 霞が関ビル三十四階 霞会館内 電話 〇三(三三八) 九一五一(番代) 〒100-0032 東京都港区六本木六丁目十六番五十号 電話 〇三(三四〇八) 五八七六番
財団法人 若葉会 若葉保育園 園長 保泉欣嗣 〒361-0073 埼玉県行田市行田十一一〇 電話(〇四八)五五六―二七九七	大野建設株式会社 代表取締役 大野年司 〒361-0023 埼玉県行田市持田三丁目四番三号 電話 〇四八(五五三)〇一〇〇	棚沢書店 古本買入 棚沢孝一 〒113-0033 東大正門前 文京区本郷六一一八―一二 ☎〇三―三八二―〇三四一	小山商事株式会社 取締役会長 小山博 〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五―一 電話 〇四八五五九―四二二(代表) FAX 〇四八五五九―二五五〇
有限会社 三共社印刷所 代表取締役 大谷純一 埼玉県行田市富士見町二―一三〇 TEL 〇四八―五五六―六二〇一	行田市日本中国友好協会 行田市俳句連盟 木嶋清 (俳号斗川) 〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇 電話・FAX 〇四八(五五七)〇二七三	ガクヤ株式会社 代表取締役会長 小池英輔 〒361-0072 行田市宮本五―十八 ☎〇四八―五五三―四一四一	榎本晃三 〒361-0057 行田市城西四―三一―八 ☎〇四八―五五四―〇〇三八

綿貫守男 〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号	東旭株式会社 代表取締役 長 小菅克祥 〒三六一〇〇一六 埼玉県行田市藤原町二丁目六一一 TEL:〇四八五五六一四五二 FAX:〇四八五五六一四五二 E-Mail: kotokuj@nuc.biglobe.ne.jp	進脩塾素読教室 田代敬二 〒214-0038 行田市行田六一六 ☎〇四八五五六一三七二八	大岡産業株式会社 代表取締役 大澤誠 埼玉県行田市谷郷一三三〇一 〒361-0062 TEL:〇四八五五三一〇一二八 FAX:〇四八五五三一〇二八 携帯:〇九〇一六〇二六六〇 http://www.ookasanryo.com/
取締役会長 小池聰太郎 株式会社グリーンメイト スクール販売 〒361-0075 埼玉県行田市向町一三番三九号 TEL:〇四八五五四七四二二 FAX:〇四八五五四七四二二 E-mail: koke069@greenmate.co.jp http://www.greenmate.co.jp	住職 福島伸悦 曹洞宗 松雲山 長光寺 久寶山 興徳寺 雲峯山 東泉寺 (連絡先) 〒361-0075 埼玉県行田市下中条一六一九二 FAX:〇四八五五七二〇九九九 E-Mail: kotokuj@muc.biglobe.ne.jp	山本商事株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代表取締役 山本憲作 〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇一四二 TEL:〇四八五五三一〇二八 FAX:〇四八五五三一〇二八 http://hoken-yamamoto.co.jp e-mail: info@hoken-yamamoto.co.jp	小川工業株式会社 代表取締役会長 小川雅以 本社 埼玉県行田市桜町一丁目五番十六号 電話:行田(〇四八)五五四一四一一番 ファクス(〇四八)五五三一四四四番 東京支店 東京都港区新橋二丁目十六番一〇号 電話:〇三(三五〇三)一一九二番
渡辺株式会社 代表取締役 渡辺栄一 〒361-0073 行田市行田一四 電話:〇四八五五六一三一四八 FAX:〇四八五五六一三一四八 自宅:〇四八五五六一三一四六	株式会社 リノン LINON CORPORATION 代表取締役 新井啓介 President 〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五 TEL:Office: 25 Meiya Gyodoshu Satamaken Japan TEL:〇四八五五五〇五九 FAX:五五五三三九 携帯: (Cell) 〇九〇一三三〇四四 http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp	有限会社 高戸環衛 代表取締役 戸ヶ崎直司 〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三十一一二六 電話:〇四八五五四一九二〇 FAX:〇四八五五六一六二二七	地元に着した住まいづくり 株式会社 ファイブイズホーム 代表取締役 細井保雄 〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目一番一七号 電話:〇四八(五五三)二二七二
代表取締役 飯田芳幸 yoshi@sakitama.or.jp 株式会社ハートネット http://www.emborick.co.jp さきたまインターネット http://www.sakitama.or.jp 埼玉県行田市北河原七〇五番地 GPSアドレス N:36°11'25" E:139°25'40" TEL:〇四八五五七三三六六(代表) FAX:〇四八五五七三三四二二	財団法人忍郷友会 名誉理事 佐藤孝太郎 〒361-0076 行田市天満三一十六 ☎〇四八五五六一八九〇〇	割烹 和可箱 飯島千裕 〒361-0074 埼玉県行田市旭町六一二 TEL:〇四八五五四一三三三八 FAX:〇四八五五四一三三三三	小山商事株式会社 代表取締役 社長 小山喜一郎 埼玉県行田市大字埼玉三三五一番地 〒361-0025 電話:〇四八五五九一四二二(代表) ファクシミリ:〇四八五五九一五五〇 携帯電話:〇九〇一三三四一八五五九

渡辺株式会社

グラフィック事業部

常務取締役

渡辺久記

〒361-0077 埼玉県行田市忍一―五十一―一〇二
電話 〇四八―五六四―六五二五

味工房 那のつ

代表 阿部 秀二郎

〒361-0023 埼玉県行田市長野一―三三―一〇
電話 〇四八―五五五―一四五〇

創業 文久二年 伝統の味

割烹 魚 豊

橋本恭一

TEL 〇四八―五五三―三一一三
FAX 〇四八―五五三―三一一四

山本食品株式会社

代表取締役会長

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八四六一―
電話 〇四八―五五九―二二一一

編集後記

寒い夜、除夜の鐘の音が遠くから聞こえてくる時間になるともう年明けです。毎年繰り返される行事ですがなくてはならないものの一つです。

郷友会の会報を皆様方のお手元にお届けする季節が又来ました。

会員の方々、各事業のご担当の方々にご苦労をかけてやっと形になりました。今年は後半の世界的な経済危機のお陰でそれ以前のことはすっかり忘れてしまったかのような感じがしてい

ます。それはそれで良いのですが2009年がどんな年になるのか、何か不安を感じているのは私だけではないような気がいたします。将来作りを政治家の方々にお任せするのではなく自分自身で作り上げていかねばと思ってみても、力足らずから身の回りのことで精一杯の状況です。

この会報が会員の皆様方のお手元に届く頃にはきっと良い年になっていると確信しています。会報作りに御協力いただいた方々に感謝致します。

広報委員長

黒淵 陽夫

発行者 財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌
事務所 埼玉県行田市行田五―一〇
(十万石スリーハートビル3F)

TEL 〇四八―五五六―九〇〇〇
FAX 〇四八―五五六―九〇〇七
URL/ www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail/ gyouda@oshi-goyukai.or.jp

印刷所 有限会社 三共社印刷所
〒三六一―〇〇二一

埼玉県行田市富士見町二―一―三〇
TEL 〇四八―五五六―六二〇一
FAX 〇四八―五五六―六二〇四

